

会 議 録

会 議 の 名 称	令和4年度行田市まち・ひと・しごと創生有識者会議
開 催 日 時	令和4年9月22日(木) 開会：午前10時00分 閉会：午前11時45分
開 催 場 所	行田市役所本庁舎 3階 305会議室
出席者(委員) 氏 名	長岡幸雄委員、山本直樹委員、野本勝之委員、堀口弘委員 小林永典委員、田尻要委員(代理)、鈴木久代委員 吉岡浩司委員、飯田勇司委員、小林義治委員、寺山昌文委員 黒木唯委員、石川隆美委員、渡邊直毅委員
欠席者(委員) 氏 名	川久保仁多朗委員、細井保雄委員、間宮真路委員、
事 務 局	総合政策部：島田総合政策部次長兼企画政策課長、 横倉企画政策課主幹、青柳企画政策課主任 栗田企画政策課主任 環境経済部：蓮見副参事
会 議 内 容	(1) 総合戦略の進捗状況について (2) 地方創生推進交付金の活用状況について
会 議 資 料	・会議次第 ・委員名簿 ・資料1 まち・ひと・しごと「総合戦略」について ・資料2 総合戦略の進捗状況 ・資料3 行田市の人口動態等データ ・資料4 地方創生関係交付金活用状況
そ の 他 必 要 事 項	傍聴者 1名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ（石川座長）</p> <p>3 議事</p>
司 会	<ul style="list-style-type: none"> ・議事に入る前に、会議の公開・非公開に関する取扱いについて確認させていただく。本日の会議では、個人情報を取り扱う予定がないことから、公開とさせていただく。また、会議録は、発言者名を明記の上、要点筆記で作成し、市政情報コーナー及び市ホームページにおいて、後日公開させていただく。 ・それでは、本日の「議事」に入る。要綱第3条第2項の規定により、ここからは石川委員に座長として進行をお願いする。
石川座長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、議事（1）「総合戦略の進捗状況」について、事務局より説明をお願いする。
事務局	<p>（1）「総合戦略の進捗状況について（資料1・資料2・資料3により説明）</p>
石川座長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局の説明のとおり、総合戦略に位置付けた各種施策の進捗状況については、この有識者会議において検証を行い、いただいたご意見を今後の取組みに活かしていくこととされている。 ・そういった観点から、ご意見、ご提案があればいただきたい。
寺山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省が推進しているウォークブル推進都市について、国土交通省の資料を見ると、行田市は参加していないようである。埼玉県内でも参加自治体が多々あるが、行田市はどのような判断で参加していないのか。 ・これまでの市の政策を見ると、住みやすいまちづくりや、そういう方向性の事業を実施してきていると思うが、行田市においてウォークブル推進都市に積極的に取り組んでいくという姿勢が見受けられないのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省が推進しているウォークブル推進都市は、全国的な人口減少も受けて、コンパクトで歩いて暮らせるまちづくりを進めるという趣旨のものだと思うが、本市の都市計画マスタープランにおいては、JR行田駅周辺と中心市街地を都市拠点と設定しており、将来的にはそれらの拠点において、歩いて暮らせるまちづくりを推進したいという考えでいる。 ・総合戦略の中ではこの点について触れていないが、それに向けた取組みとしては、今後、立地適正化計画を策定する予定である。当該計画で拠点をより明確に位置付けた後、その取組みの一環として、寺山委員のご意見にあった取組みについても選択肢の一つとなると考えている。
寺山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私の手持ち資料では令和4年7月末現在で328都市がウォークブル推進都市に参加しているが、埼玉県内では行田市が参加して

事務局	<p>いない。事務局から説明いただいたとおり、今後、検討していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市が歩いて暮らせるまちづくりを推進していくうえで難しい点は、主要路線であるJR高崎線から中心市街地が離れており、駅周辺に本市の中心市街地が形成されていないという点で、近隣市と比較して地理的な条件が良くない状況である。 ・また、本市は歴史的に多くの町や村が合併して発展してきた経緯があり、それぞれの集落が市内各所に形成され、地域の拠点となっている。単純に全てを都市拠点にまとめるコンパクトシティではなく、それぞれの集落は地域の拠点として残しつつ、それを地域公共交通で結ぶというコンパクトプラスネットワークという考え方でまちづくりを推進していきたいと考えている。
寺山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・行田市の知名度の問題があるが、私の感覚では県内からの知名度はあるものの浸透し切れていない部分もあると考える。埼玉県名発祥の地であることや埼玉古墳群があるなど話題は豊富であるため、そういう意味で県内外に発信することが可能と考える。また、観光づくりに関しても知名度を生かした市町村間の連携なども考えられる。最近では報道でも海外において和服の人気の高いようなので、そこをうまく活用して観光開発に繋げていく取り組みも実施するとよいと考える。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・和服に関連していうと、平成29年に本市が文化庁の制度である日本遺産に「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」というストーリーで認定された。足袋はこれまで、どちらかと言うと過去のものであり限られた職業の方が限られた場面で使うものであったが、寺山委員のご意見のとおり、例えば、外国人が日本文化としての足袋に興味を持つなどの状況が見受けられる。市内の足袋事業者でも、そうした状況を受けて、外国人向けの和風デザインの足袋などの新商品を開発したり、積極的に海外のイベントに出展するなど、外国人をターゲットとした取り組みを行っており、市ではそうした足袋事業者に対して、国の交付金を活用してこれまで支援してきた。
石川座長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から説明があったとおり、行田市では現在、立地適正化計画と地域公共交通計画の2つの計画で連携が取れるよう、同時に策定を進めているところである。コンパクトシティを念頭に置きつつも、都市拠点と特色ある各地域をネットワークで結ぶ、コンパクトプラスネットワークを実現させるため、JR行田駅周辺の活性化も含めて、しっかり取り組んでまいりたいと考えている。
小林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市民や移住希望者が考える要素として、交通の利便性が重要であるという観点から申し上げるが、市民のJR駅の利用頻度は、吹上駅の方が行田駅より高いと実感している。例えば、現在策定している各計画の中に、行田市のみならず市を跨いだ地域活性化も

	<p>視野に入れ、地域公共交通機関の新たな枠組みなどを取り入れるとよいと考える。市民が多く利用している吹上駅は市外にあるものの、交通利便性が高まることが期待され、地方の魅力が増していく状況も考えられると思う。若者の定着が必要であることが資料3の人口動態等データからも読み取れるが、行田市は決して人口減少が続くまちではないと思っており、そのためにも交通の利便性向上のための取組みを隣接市などと連携しながら検討いただきたい。</p>
<p>石川座長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小林委員のご意見のとおり、総合戦略における国の考え方の中において、地域間連携が重視されている。1つの自治体だけでは難しいことでも、近隣と連携することで交通の利便性向上が期待できる。今後、吹上駅は行田市民が多く利用している一方で、北新宿地内において鴻巣市が区画整理事業による開発を現在も進めている。当該地区に移られた方は、逆にJR行田駅が徒歩圏内といったことも見込みながら、しっかり鴻巣市と連携をとり、ともにまちづくりを進めていけるように考えてまいりたい。
<p>鈴木委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> JR行田駅周辺が非常に綺麗に整備されたことは印象深く受けとめているが、それに続くまちづくりの構想がJR行田駅周辺にあるのか。 また、JRだけでなく、秩父鉄道行田市駅周辺の活性化も重要であると考えている。八幡神社を中心に、花手水の取組み等で地域活性化を図っているとのことだが、肝心の行田市駅前が少し寂しいようにも感じている。そのため、秩父鉄道と連携し、駅前を地域の特徴ある景観にしていくような計画はあるのか。現在、行田市内の秩父鉄道の駅が全て無人化となり、防犯上問題があるようなことも確認している。市として予防的な観点から戦略を立てていただきたいと考えている。
<p>石川座長</p>	<ul style="list-style-type: none"> JR行田駅の駅前広場の再整備は一旦完了しているが、これまでの過程でどのように賑わいを創出するかを全庁的に検討したことがあった。その後、まずは駅前整備の完了に注力し、一息ついた状況ではあるが、人の流れをいかに創出し、駅周辺の活性化を図るかについては重要な課題であると認識している。 秩父鉄道に関しては、10月に深谷市内に商業施設がオープンするのを契機に行田市駅までは駅のプレートが一新された。中心市街地の活性化については、将来的に総合戦略が第3期に移行することや市全体のにぎわい創出のための施策の検討を踏まえて対応していきたいと考えている。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> JR行田駅の駅前広場の再整備は完了したが、国道17号から駅に至る道路の沿線は、駐車場が多い状況にある。駅周辺に低未利用地が多い状況は、駅前として相応しい状況とは考えておらず、利活用を促進していきたいと考えている。しかし、駅の利用者数

寺山委員

もそれほど多くはない状況の中で需要が見込めるかという点が課題であり、今後も難しい状況ではあるが、継続して活性化の取り組みを検討していきたい。

- ・秩父鉄道沿線については、先ほど座長より八幡通りの話があったが、このまま八幡通り沿線のみ取り組みを継続していただくだけでなく、そこから波及させていく施策が必要と考えている。どの方面に波及させるのかというところから検討したいと考えているが、その中では、駅からの動線を考えたエリアや、忍城址との結びつきを考えてのエリアなど、いくつかのパターンが考えられる。今後も継続して検討を重ね、都市拠点としての中心市街地とJR行田駅周辺双方の活性化に向けて取り組んでいきたいと考えている。
- ・私の関心事の1つに子どもの貧困がある。特に、デジタル化が進展している現在において、格差がさらに拡大している状況があると思う。文部科学省の発表により全国的にGIGAスクール構想の実現を目指すことされており、児童・生徒1人に1台のタブレット端末と高速ネットワークを整備することとされているが、この取り組みが貧困世帯にも行き渡っているのか、きちんと活用できる環境が構築されているのかが不明である。20年、30年先を見据えて、子どもたちが健全に成長していくために、しっかり対策しなければならない。私が常々感じているのは、今まさにこのデジタル化社会が拡大する中で、富裕層はその取り組みをベースとして充実した教育環境を整えており、一方で貧困層はそれを十分に活用することができず、格差が拡大しているのではということにある。そうすると、20年、30年先にどのような世代が生じているのか。デジタル化は急速に進展しているが、必要なのは人が育った環境の中で何かを超えたりできるということが必ず必要であり、教育現場にデジタル化がある程度浸透すると人間力とかそういうものの必要性が浮かび上がってくるのではないかと思っている。人間力を排除して自分たちの力関係だけで生きようとしていくような世代が生じたときに、今の日本の世代がそうであったと気づくことになるが、そうならないよう今から20年、30年先を見据えて我々が何をしなければならないのかということ私を私考えている。
- ・GIGAスクール構想をどうやって実現していくのか、学校改革ももちろん重要で、今まさに文部科学省の紹介動画を見るとそのような取り組みを進めているところも結構あるが、一方で、先程申し上げたように貧困層に対して、GIGAスクール構想の実現がどこまで果たせるのか、あるいはそういう環境がどういう形で施策の中に盛り込んで浸透しているのかが見えない。子どもたちの第3の居場所という所があると思うが、第3の居場所である子ど

も食堂などの設置だけでなく学習支援を取り入れることでGIGAスクール構想を実現する。自宅には学習できる環境がないが、第3の居場所に来ることによって学習支援を受けることができるというような環境を作っていかなければならないと考えている。そこで、その学習支援を誰がするのかという課題があるが、Z世代は社会貢献の意識が高いということを考えていくと、学習塾も自分たちの利益だけを考えて富裕層だけに目を配るのではなく、困難な環境に置かれている子どもたちの中にも優秀な子たちが多くいるので、この子どもたちにもしっかりと支援の手を差し伸べ、単なる学習塾ではなくしっかりと社会貢献に対して目を向けられるような施設になって欲しいと考えている。そのような取組みをすることによってその学習塾も社会的な信頼性が高まっていくのではという構想を私は作りつつあるが行田市としてはどのように考えているのか。

石川座長

- ・ 寺山委員のご意見は、本市のみならず子どもたちを健全に育成していくうえで家庭の環境だけでも重要なポイントであると考えている。GIGAスクール構想については、ハード面として自宅にWi-Fi環境がない家庭においては、専用機器を貸し出して持ち帰りのうえ利用できるよう準備しており、誰1人取り残さず家庭においてオンライン教育に取り組める環境を整えている。ただ、その環境を享受するに当たって、各家庭における認識の差で子どもたちの学習の進捗に妨げがあってはいけないと考えている。寺山委員からご意見があったとおり、子ども食堂などの環境整備もあるが食事のみならず、家庭での過ごし方、子どもたちに良い影響を及ぼすような環境づくりをしっかりと整えていかなければならないと考えている。
- ・ 学習塾に関するご意見もあったが、最近はYouTubeなど自由に視聴できるコンテンツにより、学習している子どもたちがいると報道を見て承知している。あらゆる対策が考えられるが、どのような家庭環境においても、しっかりとした教育が受けられる環境を本市においても構築していかなければいけないと考えている。そのため、国の支援は必要ではあるが、引き続き、SDGsの考え方に則り、誰1人取り残されないようにしっかりと取り組んでまいりたい。

山本委員

- ・ 先日、行田青年会議所主催により、廃校を利用したイベントが開催された。雨の中にも係わらず非常に多くの方が来場し、市民団体などの協力により、各教室内において手作り教室などが展開されていた。そのように廃校を上手に利用することで、子育てや観光支援に結び付けるとよいと思う。そのために水道を常に使用可能な状態にしておく必要もあると考えられる。

<p>石川座長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・また、先程、各委員から意見があったGIGAスクール構想について、参観日で学校に出向いた時のことであるが、デジタル画面が用意されているにも係わらず、教師がそれを活用しきれていないように感じたため、活用促進に向けた取組みも必要であると思っている。 ・先日の廃校校舎を利用したイベントは私も伺わせていただき、このような使い方でにぎわいが創出できるものと改めて認識できた。現在、廃校の利活用に関してご意見を頂くことが多いところではあるが、より良い運用方法があるのではとも思っており、今後に期待しているところである。 ・GIGAスクール構想について、ハード整備は進んでいるが活用しきれていないという点については、ハード面の充実と並行してICT支援員を導入したうえで現場教員への支援を充実し、なるべく早く環境が整うように努めてまいりたい。
<p>長岡委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水城公園に関して、犬の散歩に訪れている飼い主についてであるが、ふんの持ち帰りのためのバックを所持しておらず、リードを付けていない。そのような来園者が最近多く見受けられ、芝生広場に入れられない状況が時に発生している。犬の飼い主に対する注意事項の看板が過去には設置されていたが現在は無い。また、池の水面に鯉が浮いていたことがある。池底にヘドロが堆積しており生き物の保全に影響がでているのではないかと考えている。また、池中には多くの外来種が発生し、藻を食べる在来種も減少しているものと考えられ、水面に多くの藻が浮いて悪臭の原因にもなっているものと考えられる。 ・また、水城公園のモデルとなっている中国蘇州にある公園に柳の木が多く生育しているように、行田の水城公園にもかつては多くの柳の木があった。止むを得ず伐採している箇所が見受けられるが、捕植されていない状況にある。私は、毎日散歩に訪れているが、最近になって来園者が少ないように感じているので魅力ある公園になるよう取り組んでほしい。
<p>石川座長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の水城公園のように市中心部にこれほど大きな公園があるケースは稀であり、来園者に好評いただいている公園だと認識している。ただ、他の来園者に対する配慮が足りない方や時期的に環境保全に関して周辺住民も憂慮されているとのことから、ご意見をしっかりと伺いながら四季折々の状況をしっかりと捉えたうえで公園整備を図っていきたいと考えている。
<p>小林委員</p> <p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税の寄付がかなり伸びているが、行田市として何か特別に取り組んだことはあるのか。 ・ふるさと納税制度は、平成31年4月に基準が厳格化され、寄附に対する返礼品がその市町村内で生産されたものでなければならないという規定ができ、総務省の厳しいチェックが入るようにな

	<p>った。返礼品の拡大には常に取り組んできたところだが、こうした厳格化を機に、市の特産品だけでなく、日常的な品物、例えば、本市の工業団地の中で生産されている製品を返礼品に追加したところ、そうした品物に対して大きく寄付をいただいているところである。</p>
石川座長	<ul style="list-style-type: none"> ・また、寄附者が寄付をしようとする際に、市のホームページから寄附の手続きをいただければそれ以上に望ましいことはないが、実情として、ほとんどの方は民間企業が運営しているふるさと納税のポータルサイトを介して本市の返礼品に辿り着くといったケースが多い状況にある。このようなポータルサイトへの登録数を増やすなどの取り組みもこれまで行ってきた。その結果として、ふるさと納税寄付が伸びたものと考えている。
寺山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税は、事務局から説明のあった基準に基づき、様々な返礼品が用意できるものと考えられるため、アイデアがあればご提案いただきたい。 ・テレワークについて、都心の本店などは規模を縮小してきており、今後、完全に以前の状態に戻ることはないと思っている。私自身もよくテレワークをするが、喫茶店に行くと満席に近い日もある。来店者は、実際に会社に出勤している状態と同じように営業活動をしている方もいる。 ・テレワークを考えると行田市は非常に環境がいいと思っている。その理由の一つとして、歴史があるということにある。歴史を実感しながら、あるいはその自然の景色を見ながら仕事ができることにある。もう一つは、言うまでもなく観光資源が豊富なことであり、古民家の開発なども考えられる。このような市の環境を生かしてテレワークの需要が見込めるものとするが、行田市としてはテレワークについてどのような見解を持っているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市の施策として、テレワークの環境整備に当たる事業は実施していない状況である。ただ、寺山委員のご意見のとおり、会社によってはテレワークが当たり前になってきており、出社は週1回とか月1回という方が増えていると認識している。本市でも、例えば移住希望者向けのイベント等に出展し、直接、移住希望者の声を聞く機会があるが、そうした方々の多くは、単にテレワークができる環境があればどこでも良いということではなく、例えば、郊外にある広い一軒家に住んでみたい、庭で家庭菜園ができれば良いなど、テレワークのみでなく、何らかの付加価値を求める傾向が強いと感じている。本市の強みとしては、都内と比較して土地の価格相場が非常に安価であるため、そうした強みをベースに本市の特徴をわかりやすくPRしていくというのは一つの手法としてあると思う。

寺山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりについて、先程事務局から説明があった難しい点はあるかと思うが、テレワークの環境を整備することも考えられるのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、立地適正化計画を策定中のため、ご意見を参考とさせていただきます。
石川座長	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の皆様からいただいたご意見を全庁に共有させていただき、総合戦略だけでなく今後の様々な施策の参考とさせていただく。 ・それでは、議事（２）「総合戦略の進捗状況」について、事務局より説明をお願いします。
事務局	<p>（２）「地方創生推進交付金の活用状況について（資料４により説明）」</p>
石川座長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局より行田版DMOを核とした地域形成プロジェクトの説明があったが、各委員からご意見があればいただきたい。
小林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・さきたま市場について、かなり期待をしており、DMOの動きと連動してさらに行田市のPRになるのではと感じているが、概要などを公表できる範囲で教えていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・確定していないことも多く、詳細までは説明することができないが、現在、市場の設置業者が決定したところである。さきたま古墳群が特別史跡となって多くの観光客が訪れているところであるが、近隣に土産店等が少なかったため新商品を含めて本市の特産品を扱うことを検討しているところである。
長岡委員	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬県の沼田インターチェンジ付近に年間売上高が非常に高い道の駅がある。地元の野菜などを販売しているが、インターネットを利用して農家に呼びかけ、品物を絶やすことなく納品しているようである。その他、様々な店や子供の遊び場などで整備されているため参考にしてみたらいかかがか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重なご意見であり、参考とさせていただきます。
石川座長	<ul style="list-style-type: none"> ・私も２度ほど出向いたことがある。その道の駅だけに行く目的をもって訪れるだけでも、非常に価値がある施設ではないかと思っている。本市におけるさきたま市場も大きな特別史跡の中に位置しており、歴史や文化に触れることができると考えているため、より良い施設になるよう検討を重ねてまいりたい。 ・委員の皆様からいただいたご意見については、商工観光課やおもてなし観光局にも共有させていただき、しっかり今後の施策に取り組んでいきたいと考えている。 ・他に意見がなければ、これにて座長の職を解かせていただく。
司 会	<ul style="list-style-type: none"> ・以上をもって、令和４年度まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会とする。
<p>< 閉 会 ></p>	